

時事新報

られたり思ふに英國にて授爵の沙汰あるは必ずしも政府の文武官のみに限らず苟も國家に殊功を樹て或は文明進歩の爲めに一廉の功を奏したる者は其人の功業を問はず又其職業の如何を嫌はず誠々と授爵して其人を顯著にして敢て名むの色なきは流石は文明國の美風として我輩の毎度感嘆して止まざる所なり左れば同國にて學者金滿家等にして授爵の恩典に預りたる者も尠からざれども古來演劇の一藝に至りては世間一般に職業視せられて士君子は俳優輩と齒するを耻ぢ殊に田舎の宗教家の如きは只管あれ排斥して止まざりき然るに第十八世紀の後半佛國大革命の頃より起りたるはヒット世界物質的大變動と共に人心も益窮窟卑隘の域を脱して隨て世上に演劇を興しむの念も薄らぎたるはヒットに次で英國の大政治家と稱せられたるカンニンゲン氏が外務次官の頭職にありしどき其母氏が籍を梨園社會に列して敢て世人の非難を蒙らざりし一事に徵してもしかばも今は然らず諸方の大學校より時をして俳優のアーヴィング氏授爵の沙汰とも聞くに至りしとなり米國にても英國と同じく昔年は此技能を興しむの風なりしかばも今は然らず諸方の大學校より時をして俳優の達人に名譽學位を贈るの例ありと云へり是等の事例は本邦人の眼に一見新奇の如くなれども我輩は之を尋常なるに降て較近二三十年來の世變と共に偕ては今回アーヴィング氏授爵の沙汰とも聞くに至りしとなり米國にても英國と同じく昔年は此技能を興しむの風なりしかばも今は然らず諸方の大學校より時をして俳優のみ政治家とは政治を以て其職掌と爲し俳優とは演劇を以て其業務と爲したる者にして職業の異同は以て人間を輕重するに足らず但し政治家中にも能不能あるが如く俳優中にも達不達ありて其名譽固より一様ならざるが故に苟も俳優にして藝能一世に冠絶して自から世の文明に益する者わらば政客軍人等の國家に盡したる者と同じく授爵敘位の沙汰ありて啻に不可なきのみならず亦是れ文明の國事として觀る可きものなり蓋し我輩の此言を爲す偶然にわらず今や我國は敗戦後の經營に我々として軍備擴張せざる可らず商工業亦發達せしめざる可らず都て焦眉の急あれども一國進歩の大方針より觀るときは苟も文明の要素にして其一を缺くものは不眞の文明にして我輩の取らざる所なり例へば其一要素の談を聞くも久し今に至るまで其事の舉らざるは畢竟梨園社會の人品端しきのみならず稀に人物と稱する者も唯藝を知るのみにして一切の人事と解せず怡も文明以外の痴漢なるが故に其社會全體の不振も謂れなきに非されども抑も上流の人々が今日尚ほ古風に戀着して此種道に重きを置かず俳優と職業者として之を蔑視するの一事も亦梨園不振的一大原因として認めざるを得少傳の英國等に於ては古來王族の身を以て芝居見物は第一義の事にして今亦名優授爵の新事例を開いたるが如きの進歩する蓋し偶然に非ざるなり然るに日本のみ亦忽にす可らずや論を俟たず我國にて演劇改良の議を聞くも久し今に至るまで其事の舉らざるは畢

爵位は専ら政府と名くる一局省内の專有にして其部外
人民に在ては職業の如何と問はず功勞の如何に拘はらず
すむて授爵の沙汰を聞かざるのみか爵位の有無は以て
官民を區別するの標準も不可なきが如し一國文
明の大局に着眼する者は此偏重偏輕の利害を判するに
難からざる可し

◎臺灣通信

八月二十日 於臺北 卷水生
外の彈薬大隊

め同隊總列長秋月大尉を訪問し浅底灣上陸以來種々の
快談壯語を聞もし語りもする折柄偶然にも談柄は悲哀
の點に沈みたり他なし予と嘗て一面識ある同大隊附二
等軍曹鶴村茂平氏の戰死あれなり

鶴村軍曹戰死の狀況

袖すり逢ふも多少の縁とはよく世人の口にする所なれ
ども旅に出でて始めてその縁の淺からざるを知るなり

況んや萬里異鄉の地に於てをや予は基隆に上陸するや否やマラリヤ熱に犯され熱度高くして歩行に苦み僅々三四里の道を白晝十二時間の中に拾ひ兼ね幾回か路傍に困臥しつゝ漸く水邊脚に達し同所に一泊して馬も籠もなれば又々早明より覺醒なくもチンバ引合つゝ鐵

道線路を辿り行きしも今は肩に懸けたる手荷物は「重荷」となりて投げ棄てたき程なりしが此時一隊の彈薬縱列隊幾頭の馬匹を牽きて通過するを視予は第一番に乗り立てる軍曹に向ひ歩行に困難の由を述べ臺指まで

荷物の運搬を請ひたるに、同軍曹は馬四隻疲れて重いなる彈薬すら充分には積み難ひ故に他人の荷物は積込み難きも折角の申込なれば自分の手荷物として預らん到着の上は請取に參らるべしとて馬上に積載せられぬ唯是一個の荷物、子の身に取りては實に感謝に堪へず然

るに臺北へ到着後車を飛ばして探しむれども見つからず翌日を経て始めて同大隊の宿所に至りその次第を物語りたるに同軍曹は落ち散らぬ様包藏し置きたるを自分の居間より取出して渡されたるふとは既に當時の通信にも掲げたりその後同大隊は中歴近傍に進み予は臺北を基

隆との間に來往し居りしためまた相會するの機なししたまく同大隊の秋月大尉と面會したれども既に何れの人が又何れの大隊なりしやを知らず何處にてか見覺のある様なりなせ物語り居る際談柄移りて鷗村軍曹戰死の事に及び始めて同日に水邊脚より來りしみどを知る

豈に圖らん嶋村軍曹は是れ子の荷物を便載し吳れたる人ならんとは聞く同氏は三重縣伊勢國鈴鹿郡野登村大字邊法寺の人にしつて近衛師團の召集に應じ本年二月二十八日東京を出發し三月九日宇品を出で同十九日大連灣に上陸して風雪を冒し李家屯に到着したる際には衆

に先んじて奔走盡力到らざるなく其後彈薬大隊附となりて臺灣に進み澳底灣より基隆に彈薬を運搬する際はいつも先鋒となりて秋月大尉の幕下に屬し最も敏腕家にてその功績歎からず一隊を率ゐて統御その宜しきを得軍夫に至るまでも歸意するもの多く前途望み深から

しに六月二十一日同軍曹は一隊の兵卒及び軍夫數名と

二時過十五分大坂迄、六時五十分、(急行)神戸迄、八時五十五分(夜行)神戸迄
午前三時五十八分(急行)神戸迄、○(瀬戸)松波(下行)、午前九時五十分(夜行)神戸迄
分(大)尾迄、八時半(急行)神戸迄、○午前六時五十分(急行)神戸迄、○名古屋迄
分(急行)神戸迄、八時五十分(急行)神戸迄、午後二時五十分(急行)神戸迄、○(瀬戸)松波(下行)、
午前四時四十分(急行)神戸迄、○午前四時四十分(急行)神戸迄、○名古屋迄

を賣うする事は叶はざると一
三時二十分(米原駅)、九時四十分(高
崎駅)、(行新橋迄)、七時十三分(名
古屋駅)、(行新橋迄)。○京都駅发
四時四十分(名古屋迄)、十一時卅五分(高
崎駅)、六時二十分(米原駅)。

海山口の市街

此の堅硬なる一原因なり
地の堅硬なる一原因なり
地の堅硬なる一原因なり

不潔は咎むべきにわからぬ。於けるをや。予は淡水河の連山の間青々たる田舎街は依然たり市中は甚

真措能はざりき
打類抗附近の

焼け落ちたり田間には、まるで水牛の類駆除を走る。中には幾多の良民冤死がある。

臺灣の敗兵を助は
るもの畢竟は自ら招く
燒跡の日章

兵力の恐るべきを知りんと心を結ばんとする彼等の
謀むべきものありかくては民も大に感する所あらん

再度の南進は我兵臺灣府に入る日無事に便乗し得るや否

● 気候

○横濱船渠會社の
鐵工所 抑も船渠の製造する
のに非ず船渠は必ず大
量近歐米にて製造する船渠

然れども唯一個の大船渠の内
じを得ずして大船渠の内
見れず故に大小數個の船
渠汽船會社に大小の汽

船體機械に多少の修繕
ノ近年製造の船舶は悉皆
業に鐵工所の必要なるは
ノ若し船渠會社にして
となし能はずとせば恰も